



科研費基盤研究(S)の成果報告(活動報告)

奥村, 弘

(Citation)

Link : 地域・大学・文化 : 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報, 6:146-147

(Issue Date)

2014-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81008714>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81008714>



科研費 基盤研究 (S) の成果報告

奥村 弘

歴史資料の現状把握および各地で生まれた歴史資料保全論の比較検討を基盤とし、地域歴史を次世代に引き継ぎ、地域住民の歴史認識を豊かにしうる地域歴史資料学の構築をめざすものである。

三 研究の方法

本研究では、新たな地域歴史資料学を構築するために、各地の大規模自然災害による被災地の歴史資料保全論に焦点を当てる。そこで、被災地を中心に形成されてきた個別の歴史資料保全論を総括し、現地での調査・ワークショップを含めて集中的に検証するという手法を第一にとった。具体的には、神戸、新潟、宮城などで「被災地フォーラム」として、フィールドワークを含む被災地調査や公開研究会を開催した。

その上で、この歴史資料保全論が歴史資料学の展開の中でいかなる位置にあるのかを把握するとともに、文化財保存科学による被災資料の修復等に関して、特に水損した紙資料に対する新たな技術を基礎とした緊急事態における科学的な歴史資料の保全論に具体的に対応することを通して、次世代の歴史研究を支える新たな地域歴史資料学の構築を目指した。

また、ICA（国際文書館評議会）や国際シンポジウムの開催など、積極的な研究成果の海

科学研究費補助金…基盤研究 (S) 「大規模

自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」(研究課題番号:21222002、研究代表者:奥村弘) グループでは、二〇〇九年度〜二〇一三年度の五年間にわたり、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターを拠点として、地域歴史資料学の構築に向けた研究を進めてきた。最終年度には、東京大学出版会より論集(奥村弘編『歴史文化を大災害から守る——地域歴史資料学の構築——』二〇一四年)を発売し、研究成果を社会に向け発表している。研究開始当初の背景および目的と方法、そして研究成果につき報告したい。

一 研究開始当初の背景

阪神・淡路大震災において、歴史研究者を中心に初めての組織的な歴史資料保全活動が行わ

れ、歴史資料ネットワークが結成された。それ以降、隔年規模で起こる大規模な地震や風水害

の被災地域で同様な団体が生まれた。以上のような各地の保全活動では、被災状況、地域社会の特質、保全活動の積み重ねなどに即した歴史資料保全論や萌芽的な地域歴史資料学が生み出された。

本研究の開始当初において、地域にいかなる歴史資料が残されており、それをいかに保全し、学術的社会的に活用していくのかを明らかにするための地域歴史資料学の構築は、緊急の課題となっていた。

二 研究の目的

本研究は、地震・大規模風水害の続発によって地域歴史資料の保全をめぐる問題が集約的に問われることになった被災各地を中心として、

外発信に努めた。

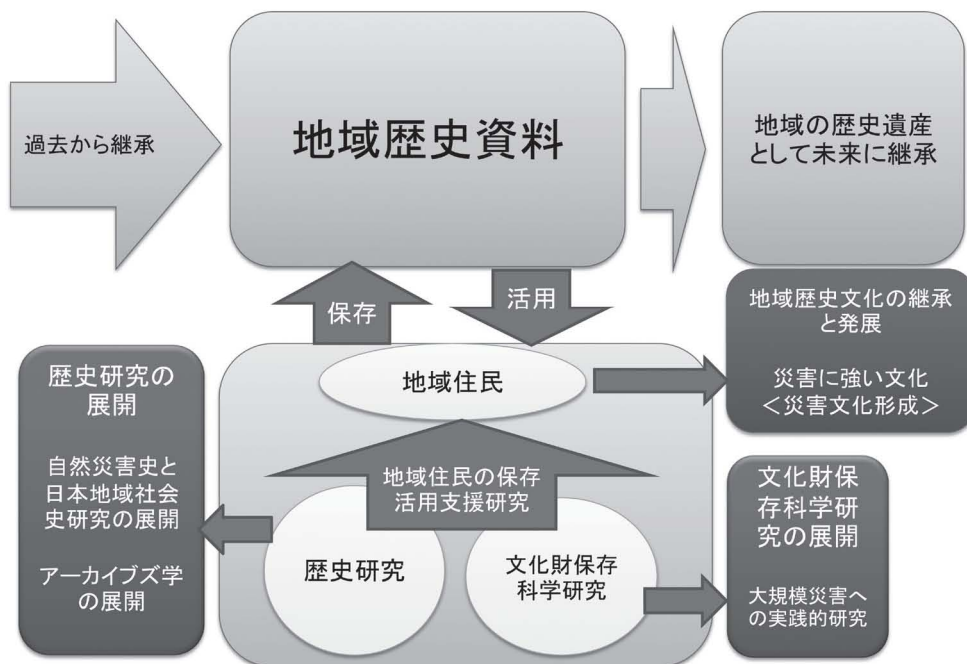
四 研究成果

大規模自然災害と地域社会の急激な構造転換の中で、日本の地域社会にある膨大な地域歴史資料は滅失の危機にある。これは人文社会科学の研究を困難とし、我が国の人文社会科学の発展と、その成果の社会的な還元にとって致命的な損失をもたらすと考え、地域歴史資料の保存活用を研究する新たな学として地域歴史資料学を構築することをめざした。

その成果は、第一に、地域歴史資料を過去から未来へと地域社会で継承されていくものとして捉え、研究者のみでなく地域住民もまた地域歴史資料の保存活用の主体と考え、その支援のための研究を含め、地域歴史資料を次世代につながる体系的な研究手法を構築しえたことにある。第二は、それを可能とする具体的な地域歴史資料の保存と修復の新たな方法を地域歴史資料学に組み込んだことである。第三は、科研の中間で起こった東日本大震災での地域歴史資料保存について、理念と具体的な方法を提示するとともに、全国的な研究者ネットワークによる支援体制を端的に構築し、さらにその現場から新たな課題を整理したことである。第四は、世界的に災害と社会変動が拡大する中で、

地域歴史資料学構築をグローバルイシューとして国際的に発信したことである。

地域歴史資料学による手法



構築された地域歴史資料学のあり方